



## 疏水に行く

弓仲 達夫



暑さのため、夏ごもりをきめこんでいましたので、2ヶ月以上歩いていなかったが、疏水めぐりで水でも見たら元気になると思って参加することになりました。

J R山科駅で降り、旧東海道を通り毘沙門堂をめざす。なかなか落ち着いた寺院であった。

毘沙門天は仏教を護るインドの神様の一つであるといわれている。

安朱橋を渡り、第一疏水沿いの整備された道に行く。近所の人々の散策路になっており、水の流れと樹木が調和した良いふんいきのあるところである。

京都にとって琵琶湖の水を引くこと

は昔からのゆめであった。明治23年に工事が着手された。第一疏水は大津市の湖岸から山科蹴上を通り鴨川沿いに伏見に至る19.96キロメートル。特に第一トンネルの長さが2,436メートルもあり、完成を危ぶむ人が多く難工事であった。

第16代天智天皇陵は大和盆地にあると思っていたが、こんなところにあったので、正直なところびっくりしました。

第二トンネルの出口から第三トンネルの入り口付近にある日本最初のコンクリート造りの橋を見学。疏水建設の立役者、田辺朔郎博士の立像と紀功碑を見学。当時、博士は東京の工部大学を卒業したばかりであった。

そこから疏水沿いを南禅寺に至る道に行く。あつというまに着いたという感じ。琵琶湖疏水記念館で説明のビデオを見た後、鴨東運河沿いに鴨川まで行く。三条で一応解散。

反省会をする人は京都駅まで歩いた。おおよそ、15キロメートルは歩いたようである。なかなか楽しいひとときをもつことが出来ました。

### 「<sup>みささぎ</sup> 陵へ 疏水の速さに 秋を感じ」

